

平成 23 年 1 月 17 日

## 南北海道情報教育研究会冬季実技講習会 情報モラルとセキュリティー講座

せたな町立若松小学校

教頭 佐々木 朗

1. 期日 平成 23 年 1 月 13 日
2. 場所 函館市立柏野小学校
3. 主催 南北海道情報教育研究会
4. 内容および講師
  - (1) ネットワーク上の危険性について  
NTT 函館支店 村井 敦様
  - (2) 子供たちを取り巻く状況  
北中学校 本谷 聡先生
  - (3) 情報モラル教材を体験  
柏野小学校 宮森 仁之先生



### 5. はじめに

南北海道情報教育研究会（発足時は渡島情報教育研究会）は、私を情報教育の分野で育ててくれた大切な研究会である。平成 3 年に私が日高から渡島に転勤になって、すぐに仲間が集って立ち上げたメンバーの一人で、副幹事長からスタートした。幹事長は、昨年突然マラソン中に亡くなってし

まった入間川裕司先生だった。入間川幹事長は、パソコンのことは相当に詳しかったが、その他に会の展望や運営の仕方など多くのノウハウを学ぶことができた。2 年後から 6 年間、私は幹事長として、研究会の運営の中心として携わっていくことになる。当時は、中学校の技術・家庭で情報基礎という選択分野が親切され、中学校を中心にパソコンが導入されるようになった。そして少しずつ小学校にもコンピュータが入るようになった。私は、授業研究と講習会、そして研究起用の発行の大きな 3 つの柱を立て、事業を進めた。恵山町立東光中学校で、パソコン教室完成のこけら落としの授業をやったのも懐かしい思い出である。講習会は、「伝統の」エクセルをはじめ、当時はめずらしかったインターネットの体験から始まり、次第にワードや動画、ホームページ作成など、参加者からのニーズに応じて企画していった。また、我々自身のスキルアップとして合宿研修などをしたのも思い出である。コンピュータグラフィックコンクール、教育長のメール講習会、出張講習会などいろんなことをやった記憶がある。また、「やったことは必ずまとめておく」というのも情報研の紀要作りでまなんだことである。自分が学んだことを書くことによって確かにすると同時に、多くの人に広め



状態になっていれば、ちょっと考えられると、「勝手に自由にお使い下さい。」という考えもあるが、悪意を持って、野良APに接続し、悪事を働くとどうなるのか。捜査機関は、その野良APを突き止めることになり、容疑がかかることになる。つないだパソコンの無線LANのMACアドレスなどは残るであろうが、それを特定するのはさらに難しくなり、犯罪に利用される可能性が高くなるということである。



また whois という サービス <http://whois.jp> にドメインを入力するとどこで使われているかも調べることができる。

私のドメイン [edu-hakodate.jp](http://edu-hakodate.jp) を入れるとちゃんと私の名前が出てきた。

ということで、インターネットにアクセスする時は、常に「見られている」という意識を持つことが必要であろう。

## ②無線LANの暗号化について

この世界はたちごとで、無線LANが暗号化されると、暗号を破るソフトウェアやハードウェアが開発され、出回る世の中である。初期の暗号化はWEP（ウェッブ）という方式であった。現在の技術を持てば10分程度で解析可能だという。解析方法は飛び交う無線LANの電波を捕らえてそれを解析するということであり、情報が飛び交わなければ解析はされないし、頻繁に使われていればそれだけ早く解析が進むということである。主流になりつつあるTKIPやAESは今のところ解読されることはないという。

## ③パスワードを盗む

電子メールは、パスワードさえわかれば、他人のメールを読むことができる。それを解析するソフトウェアもある。解析の方法は、パスワード専用の辞書を使うということである。意味のある言葉から始まって、多くのパスワード情報を集め、それを辞書にしたものである。そうそう当たるものではないと思うが、解析力はすばらしいものである。パスワードが見破られないようにするためには、英数、大文字小文字を組み合わせ、意味のないものにする、そして、大切なのは、定期的に変えることである。万が一読み取られたとしても、定期的に変えることとで損害を押さえることができる。間違っても、パソコンに貼っておいたり、誕生日や電話番号などにすることは避けたい。

## (2) 子供たちを取り巻く状況

昨年の単P研で講師を務めて下さった本谷先生の話である。小学校では表面化することはあまりないが、中学校においては、

その指導は生徒指導においても、大きな位置づけとなる。先生の話によると、メール利用者よりもWEB利用者にトラブルが多いという。子供たちが集まるサイトでは、前プロ（前略プロフィール登録者 600 万人）、モバゲー2000 万人、チップスペップス 1000 万人、mixi2000 万人、GREE2100 万人、アメーバピグ 850 万人というデータであり、ケータイを使い回している生徒の大多数は一つもしくはそれ以上に登録をしていることになる。



従前まではオープンであったものが、仲間同士でパスワードをかけて、他からの閲覧ができないようにしているユーザーが増えている。

各コミュニティーサービスともユーザー検索をすることができるが最近ヒットしにくくなっている。

私は以前ある中学校の子どもたちの利用の実態を見ようと思って、コミュニティーサイトから関係ありそうなキーワードを入れて検索をかけた。その子たちのことは知

っていたので、次第に絞られてきた。もちろん大多数は匿名であったが、ある女の子のサイトだけは友達リンクが全部実名になっていて、そのリンクからまた次のリンクと判明させていった。ところが今そのアドレスをたぐっていても、閉鎖になっているところがほとんどで、中学校の生徒指導または、別の鍵のかかる部屋へと移動したと思われる。

仲間同士のたわいないおしゃべりならまだしも、それが悪口や危険な男女交際へと変容していくことは過去の例から見ても、明かであり、その対策が急がれる。

モバゲーでは、8億円をかけて24時間体制で400名スタッフで不正な書き込みを監視している。しかしながら、その全貌を把握できるとは全く思えない。北海道でもネットパトロールが、24時間体制で、関係のサイトの書き込みを監視している。その検索も特別な者ではなくgoogleからキーワードで次々と入れるというものだそうである。私が以前やったように手がかりが一つつかめるとそこから芋づる式に全体がつかめてくるということである。

中学生は一日2時間はケータイに向かっているという。その結果として①生活リズムが乱れる。②親子の会話がなくなる。③成績が下がる。④犯罪に巻き込まれる。一つ階段を踏み外すと、まっとうな人生から転落する可能性さえある。

この分野は、私も全体像がわかるかというところつかみきれない。まして、小学校にいるとせっぱ詰まった事例に遭うことがなく、知識だけで終わってしまう。我々教員は、ネットに潜む畏については、少しは勉強しておいた方がいいし、これから中学校に上

がっていく保護者に対しては、ケータイを持たせた瞬間から、今までいなかった親の悩みが増えることは啓発していくことが大切である。

以前に勤めていた小学校で、卒業式のその日に、それも学校で、示し合わせたように複数の親が我が子に、ケータイを手渡しているのを見た。中学生で本当にケータイが必要なのか、きちんとした約束はあるのか。(後から約束を作って守らせるのはまず無理)をきちんと話し合ってから、決める必要があり、こんなバカな親にならないようにしたいものである。

### (3) 情報モラル教材を体験

情報活用能力には3つの柱があり、最後の柱が「情報社会に参画する態度を育てる。」ことである。情報モラルである。ネットの匿名性や時間を関係なくした情報のやりとり、親が全く知らないところでやりとりができるなど、危険がいっぱいである。だから、私たちは、子どもたちに情報機器を正しく使っていく態度を指導していくことが大切である。

今回は、ジャストスマイルを使って、チャットの体験をした。チャットとはリアルタイムの文字でのおしゃべりである。

私たちは、2つのグループに分かれ、ニックネームを決め、3学期にがんばることなど、子どもの気持ちになって、会話を始めた。キーボードに向かう速さは差があるので、遅ければ、前のことに答えようと思った時には、もう数個の発言が入って時を逸してしまうこともある。今回はその中に、

私たちの知らない間に講師が組み込んだ「荒し」が入れられていた。「荒し」とはそのチャットを言葉で荒らすものである。私たちがチャットをしていて、絡み合う二名の登場人物がいて、「あんたしつこいね。」みたいな発言があったりして、「誰だろう。こんなこと書く先生いるのかなあ。」などと思って少し気分を悪くしていたのであった。後から聞いて、安心したわけだ。子どもたちに指導する時も、「どんな気持ちだった？」みたいに聞いて、言葉の使い方についてのいい指導ができると思った。

このようにジャストスマイルには、情報モラルに関わる適切な指導計画や指導プログラムが組み込まれているので、我々指導者にとっては、なかなか優れたもののソフトである。

## 7. 感想

朝バスで出て、講習が終わってすぐ帰りの瀬棚号に乗車ということで、函館の町はほとんど見るができなかった。でも、久しぶりに一緒に活動していたメンバーと会えて、また、充実した講習を受けて、いい一日となった。

自分自身も2000年辺りから気に留めだし、あちらこちらでしゃべっている情報モラルについて、今一度その大切さを認識し、今後の活動に活かしていきたい。

また、昨年度休眠状態より立ち上がって檜山情報教育研究会でも、講習会や研修会を開き、今回の情報モラルを始め、授業での情報教育の実践、校務における情報化の推進などの活動を進めていきたい。